

授業科目名	競技スポーツ論・実習Ⅰ－海洋スポーツ		授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	中村 夏実・榮樂 洋光				補助担当者名			
単位数	6 単位	履修年次	1年次		受け入れ人数	15名程度		
授業の概要	<p>現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。それらの社会状況に対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しく安全に楽しめるように、基礎的知識と技術を身につけることを目標として、下記の内容を実施する。本授業では「できる」ことを目指す。</p> <p>○気象海象による危険回避の知識、活動種目選択の考え方、また荒天時の代替プログラム例などを教授する。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して、主な海洋スポーツ種目の基礎技術の習得を図る。 ○冬期においては、プールにおける泳力向上とスキndaイブングの基礎技術の習得を図る。 ○舟艇の基礎的な修理修繕方法を実習する。</p>							
授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法				割合 %	
			授業期間					
			授業	テスト	レポート	発表	定期試験	その他
	■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識、基礎的技術理論、用具の修繕に関する知識を習得する。			○			
■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組む。シーマンシップを守る。自然環境に意識を向ける。	○						20
■技能的領域	ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スキndaイブング等の主な海洋スポーツ種目の基礎技術を習得する。	○	○			○		50
成績評価の基準	80点以上はA、70点～79点はB、60点～69点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキndaイブングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。							
テキスト、教材参考書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。							
履修条件・関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。	備考(教員メッセージ含む)	<p>1) 授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。授業は海洋センターで実施します。</p> <p>2) 大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。</p> <p>3) 天候により授業内容が変更されることがあります。</p> <p>4) 授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。</p>					
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。natsumi@nifs-k.ac.jp、研究棟710室、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
前1	中村 夏実 榮樂 洋光	オリエンテーション カヌー実習（カヤック、カナディアンカヌー 基本的パドリング）			レポートの提出（1）			
前2	〃	ヨット理論・実習①（艀装と帆走）			レポートの提出（2）			
前3	〃	ヨット理論・実習②（方向転換）						
前4	〃	競技力を向上する会に参加						
前5	〃	ヨット理論・実習③（アビーム帆走とマーク回航）						
前6	〃	ヨット理論・実習④（マーク回航練習）						
前7	〃	ヨット理論・実習⑤（風上・風下レグの帆走）						
前8	〃	ヨット理論・実習⑥（レース・実技テスト）			レポート（4）			
前9	〃	ウィンドサーフィン理論・実習①（艀装とセイルアップ）						
前10	〃	ウィンドサーフィン理論・実習②（帆走～タッキング）						
前11	〃	ウィンドサーフィン理論・実習③（帆走～ジャイブング）						
前12	〃	ウィンドサーフィン理論・実習④（風上帆走）						
前13	〃	ウィンドサーフィン理論・実習⑤（風下帆走）						
前14	〃	ウィンドサーフィン理論・実習⑥（風上・風下のマーク回航）						
前15	〃	ウィンドサーフィン理論・実習⑦（レース・実技テスト）			レポートの提出（5）			
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画どおりに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。						
後1	〃	カヌー理論・実習①（シットオントップとカナディアン漕法と沈の対処）						
後2	〃	カヌー理論・実習②（シットオントップとカナディアン漕法と沈の対処）			レポートの提出（6）			
後3	〃	カヌー理論・実習③（カヌーレスキュー、シングルカヤックの漕法と沈の対処）						
後4	〃	カヌー理論・実習④（ツーリング・総括・実技テスト）			レポートの提出（7）			

後5	〃	ボート理論・実習（オーシャンボート）	
後6	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	
後7	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	
後8	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポートの提出（8）
後9	〃	スキندайビング理論・実習①（3点セットの取扱い）および泳力の向上	
後10	〃	スキندайビング理論・実習②（様々なフィンキック）および泳力の向上	
後11	〃	スキندайビング理論・実習③（マスク&シュノーケルクリア）および泳力の向上	
後12	〃	スキندайビング理論・実習④（耳抜きとサーフェイスダイブ）および泳力の向上	
後13	〃	スキンドайビング理論・実習⑤（スキルアップドリルおよび泳力の向上）	
後14	〃	スキンドайビング理論・実習⑥（スキルアップドリルおよび泳力の向上）	レポート提出（9）
後15	〃	スキンドайビング総括（エントリー～ダイブ～潜行～浮上）	レポートの提出（10）
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキンドайビング技能）	

授業科目名	競技スポーツ論・実習Ⅱ－海洋スポーツ		授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)	
担当教員名	中村 夏実・榮樂 洋光				補助担当者名		
単位数	6 単位	履修年次	2年次		受け入れ人数	15名程度	
授業の概要	<p>現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。そこで、海洋および水辺活動を展開できる指導力の獲得をめざし、他者へ注意を払う余裕を持てるレベルの技術を習得するとともに、海洋スポーツ活動の指導補助を多く経験することを目的に、下記の内容を実施する。本授業では「わかる」ことをめざす。</p> <p>○海洋スポーツ種目のより高度な技術の習得を図る。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して実習Ⅲ受講者が作成する、海洋スポーツプログラム（指導案）指導実習において、指導補助を体験する。 ○冬期においては、プールにおける泳力向上とスキンドイビング技術の向上を図るとともに、スキンドイビングレスキューを経験する。 ○舟艇の基礎的な修理修繕方法を実習する。</p>						
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法				割合 %
			授業期間				
					定期 試験	その他	
	■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識、基礎的技術理論、用具の修繕に関する知識を習得する。			○		
■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組む。シーマンシップを守る。自然環境の変化を意識する。	○					20
■技能的領域	ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スキンドイビング等の主な海洋スポーツ種目の基礎技術を習得する。なぜできたか、なぜできなかったかを論理的に理解し、改善策方を考える。	○	○		○		50
成績評価の基準	80点以上はA、70点～79点はB、60点～69点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンドイビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。						
テキスト、教材参考書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。						
履修条件・関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。	備考(教員メッセージ含む)	<p>1) 授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。</p> <p>2) 大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。</p> <p>3) 天候により授業内容が変更されることがあります。</p> <p>4) 授業内で、学生への教育効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動のみに使用します。</p>				
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。natsumi@nifs-k.ac.jp、研究棟710室または海洋スポーツセンター（0994-47-2758）						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	中村 夏実 榮樂 洋光	オリエンテーションおよび講義					
前2	〃	動力船の準備／セルフレスキュー／カヌーレスキュー	海に入ります。全身濡れますので、寒くない服装および着替えを準備してください。 レポートの提出（1）				
前3	〃	海洋スポーツプログラムの作成理論・実習	レポート（2）				
前4	〃	競技力を向上する会に参加					
前5	〃	カヌー指導理論・指導実習（補助）①（成人対象・初心者プログラム）					
前6	〃	カヌー指導理論・指導実習（補助）②（児童対象・体験プログラム）					
前7	〃	カヌー指導理論・指導実習（補助）③（中・高校生対象・体験プログラム）					
前8	〃	カヌー指導理論・指導実習（補助）④（成人対象・SUPプログラム）					
前9	〃	カヌー指導理論・指導実習（補助）⑤（一般市民参加型レースイベントプログラム）	レポート（3）				
前10	〃	ヨット指導理論・指導実習（補助）①（シーホッパー・成人初心者プログラム①）					
前11	〃	ヨット指導理論・指導実習（補助）②（シーホッパー・成人初心者プログラム②）					
前12	〃	ヨット指導理論・指導実習（補助）③（シーホッパー・成人初心者プログラム③）					
前13	〃	ヨット指導理論・指導実習（補助）④（シーホッパー・成人初心者プログラム④）					
前14	〃	ヨット指導理論・指導実習（補助）⑤（シーホッパー・成人初心者プログラム⑤レース）	レポート（4）、ヨット実技テスト				
前15	〃	スキンドイビング指導理論・指導実習（補助）（一般市民対象・スノーケリング・スキンドイビングプログラム）	レポートの提出（5）				
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画通りに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。					
後1	〃	カヌー/ボート理論・実習（オーシャンボート体験）	レポート（6）				
後2	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習①（基本帆走の復習）					

後3	”	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習②（マーク回航・タッキングとジャイピング）	
後4	”	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習③（上-下レグ帆走・コース回航練習）	
後5	”	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習④（レース）、実技テスト	レポートの提出（7）
後6	”	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	
後7	”	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	
後8	”	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポートの提出(8)
後9	”	スキndaイビング指導理論・実習①（3点セットの取扱い）および泳力の向上	
後10	”	スキndaイビング指導理論・実習②（様々なフィンキック）および泳力の向上	
後11	”	スキndaイビング指導理論・実習③（マスク&シュノーケルクリア）および泳力の向上	
後12	”	スキndaイビング指導理論・実習④（耳抜きとサーフェイスダイブ）および泳力の向上	
後13	”	スキndaイビング指導理論・実習⑤（スキルアップドリル）および泳力の向上	
後14	”	スキndaイビング指導理論・実習⑥（スキルアップドリル）および泳力の向上	レポートの提出(9)(10)
後15	”	レスキュー実習（救助者の泳力向上および基本的な救助法）	
後16	”	学期末実技試験（泳力およびスキndaイビング技能）	

授業科目名	競技スポーツ論・実習Ⅲ－海洋スポーツ		授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中村 夏実・永浜 末雄・榮樂 洋光				補助担当者名	
単位数	6 単位		履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	<p>現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。これらの社会的状況に対応した指導力を高めるため、自らプログラム（学校体験活動、市民講座、競技会、市民レースなど）を立案して、ロールプレイングで行う指導実習を主とし、下記の内容を行う。本授業では、「伝えられる」ことを目指す。</p> <p>○海洋スポーツ種目のより高度な技術の習得を図る。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して、海洋スポーツの様々なプログラムを作成し、指導者として、競技スポーツ実習Ⅱ受講者を対象に実践する。 ○冬期においては、プールにおけるスキンダイビング指導実習、およびスキューバダイビング体験を行う。 ○舟艇の応用的な修理修繕方法を実習する。</p>					
授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法		
			授業期間		定期試験	割合%
			授業	テスト	レポート	発表
	■認知的領域	指導者として、海洋スポーツを安全に行うための海事知識・危険予知・危険回避の知識、各種目の実技指導理論を理解する。			○	
■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組むとともに、未熟練者の行動に注意を払う。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○				20
■技能的領域	安全管理を含め、初心者に対する海洋スポーツ種目の実技指導ができるようになる。 手本を見せられる。説明できる。改善方法を指導できる。	○	○		○	50
成績評価の基準	80点以上はA、70点～79点はB、60点～69点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンダイビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する					
テキスト、教材参考書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。					
履修条件・関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。	備考(教員メッセージ含む)	1) 授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。授業は海洋センターで実施します。 2) 大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 3) 天候により授業内容が変更されることがあります。 4) 授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。			
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。natsumi@nifs-k.ac.jp、研究棟710室、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
前1	中村 夏実 榮樂 洋光	オリエンテーションおよび講義				
前2	〃	動力船の準備/セルフレスキュー/カヌーレスキュー			海に入ります。全身濡れますので、寒くない服装および着替えを準備してください。	
前3	〃	海洋スポーツプログラムの作成理論・実習			レポート（1）	
前4	〃	競技力を向上する会に参加				
前5	〃	カヌー指導理論・指導実習①（成人対象・初心者プログラム）			指導計画書（レポート2） ※担当者 実施報告書（レポート3） ※担当者	
前6	〃	カヌー指導理論・指導実習②（児童対象・体験プログラム）			指導計画書（レポート2） ※担当者 実施報告書（レポート3） ※担当者	
前7	〃	カヌー指導理論・指導実習③（中・高生対象・体験プログラム）			指導計画書（レポート2） ※担当者 実施報告書（レポート3） ※担当者	
前8	〃	カヌー指導理論・指導実習④（成人対象・SUPプログラム）			指導計画書（レポート2） ※担当者 実施報告書（レポート3） ※担当者	
前9	〃	カヌー指導理論・指導実習⑤（一般市民参加型レースイベントプログラム）			指導計画書（レポート2） ※担当者 実施報告書（レポート3） ※担当者	
前10	〃	ヨット指導理論・指導実習①（シーホッパー・成人初心者プログラム①）			指導計画書（レポート4） ※担当者 実施報告書（レポート5） ※担当者	
前11	〃	ヨット指導理論・指導実習②（シーホッパー・成人初心者プログラム②）			指導計画書（レポート4） ※担当者 実施報告書（レポート5） ※担当者	
前12	〃	ヨット指導理論・指導実習③（シーホッパー・成人初心者プログラム③）			指導計画書（レポート4） ※担当者 実施報告書（レポート5） ※担当者	
前13	〃	ヨット指導理論・指導実習④（シーホッパー・成人初心者プログラム④）			実施計画書（レポート4） ※担当者 実施報告書（レポート5） ※担当者	

前14	〃	ヨット指導理論・指導実習⑤（シーホッパー・成人初心者プログラム⑤） 実技テスト	指導計画書（レポート4） ※担当者 実施報告書（レポート5） ※担当者
前15	〃	スノーケリング/スキューバダイビング指導理論・指導実習（一般市民対象・体験プログラム）	指導計画書（レポート4） ※担当者 実施計画書（レポート5） ※担当者
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画通りに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。	
後1	〃	カヌー/ボート理論・実習（オーシャンボート）	レポート（6）
後2	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習①（基本帆走の復習）	
後3	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習②（マーク回航・タッキングとジャイビング）	
後4	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習③（上・下レグ帆走・コース開講練習）	
後5	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習④（レース） 実技テスト	レポート(7)
後6	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	
後7	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	
後8	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポートの提出(8)
後9	永浜 末雄	スキューバダイビング指導理論・指導実習①（基礎技術の復習）	
後10	〃	スキューバダイビング指導理論・指導実習②（フィンスイム能力の向上）	
後11	〃	スキューバダイビング指導理論・指導実習③（応用技術；ベイルアウト等の復習）	
後12	〃	スキューバダイビング指導理論・指導実習④（スキルアップドリル、スキューバダイビング）	
後13	〃	スキューバダイビング指導理論・指導実習⑤（ダイバーレスキュー①、スキューバダイビング）	
後14	〃	スキューバダイビング指導理論・指導実習⑥（ダイバーレスキュー②、スキューバダイビング）	レポートの提出(9)(10)
後15	中村 夏実 榮楽 洋光	レスキューの総括	
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキューバダイビング技能）	

授業科目名	競技スポーツ論・実習Ⅳ－海洋スポーツ		授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)	
担当教員名	中村 夏実・永浜 末雄・榮樂 洋光				補助担当者名		
単位数	6 単位		履修年次	4年次	受け入れ人数	15名程度	
授業の概要	<p>現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。このような社会的なニーズに応えられる即戦力を養うため、リーダーとして受講者グループを統率する事を主とし、以下の授業内容を展開する。本授業では、「企画できる」ことを目指す。</p> <p>○実習Ⅰの指導補助を通して、プログラム遂行における安全管理能力の向上を図る。 ○冬期においては、プールにおけるスキンドайビング指導実習、およびスキューバダイビング体験を行う。 ○海洋スポーツプログラムにおける、指導体制や安全管理体制、料金設定等の事例を調べ、それぞれ目的を設定して海洋スポーツ教室やツーリズムをシミュレーションする。 ○舟艇の修理修繕と管理方法を実習する。</p>						
授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法			
				授業期間			
	授業	テスト	レポート	発表	その他		
	■認知的領域	実習Ⅲまでに学習した知識をさらに深めるとともに、海洋スポーツ活動の意義と目的を踏まえた、総合的な活動の企画に関する知識を習得する。			○		
■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組むとともに、未熟練者の行動に注意を払う。シーマンシップを守る。自然環境の変化を意識する。	○					20
■技能的領域	海洋スポーツ活動を企画し、対象者やスタッフの技量や人数、季節、使用できる用具、フィールド等に則した計画を立案して、楽しく、安全に、総合的な指導ができる。	○	○			○	50
成績評価の基準	80点以上はA、70点～79点はB、60点～69点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンドайビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。						
テキスト、教材参考書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供する。						
履修条件・関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。	備考(教員メッセージ含む)	1) 授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限り、授業は海洋センターで実施します。 2) 大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 3) 天候により授業内容が変更されることがあります。 4) 授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。				
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。natsumi@nifs-k.ac.jp、研究棟710室、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
前1	中村 夏実 榮樂 洋光	オリエンテーション 水慣れ活動の指導					
前2	〃	ヨット指導計画と指導実習①（艀装と帆走）					
前3	〃	ヨット指導計画と指導実習②（方向転換）					
前4	〃	競技力を向上する会に参加					
前5	〃	ヨット指導計画と指導実習③（アビーム帆走とマーク回航）					
前6	〃	ヨット指導計画と指導実習④（マーク回航練習）					
前7	〃	ヨット指導計画と指導実習⑤（風上・風下レグの帆走）					
前8	〃	ヨット指導計画と指導実習⑥（レース運営）			レポート（1）		
前9	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習①（艀装とセイルアップ）					
前10	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習②（帆走～タッキング）					
前11	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習③（帆走～ジャイビング）					
前12	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習④（風上帆走）					
前13	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習⑤（風下帆走）					
前14	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習⑥（風上・風下のマーク回航）					
前15	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習⑦（レースの運営）			レポート（2）		
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画どおりに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。					
後1	〃	カヌー指導計画・実習①（シットオントップとカナディアン漕法と沈の対処）					
後2	〃	カヌー指導計画・実習②（シットオントップとカナディアン漕法と沈の対処）					

後3	”	カヌー指導計画・実習③(カヌーレスキュー、シングルカヤックの漕法と沈の対処)	
後4	”	カヌー指導計画・実習④(ツーリング・総括)	レポート(3)
後5	”	ボート指導計画・実習(オーシャンボート)	
後6	”	舟艇等の点検・補修/計画・実習①	
後7	”	舟艇等の点検・補修/計画・実習②	
後8	”	舟艇等の点検・補修/計画・実習③	レポート(4)
後9	永浜 末雄	スキندайビング指導計画・実習①	
後10	”	スキندайビング指導計画・実習②	
後11	”	スキندайビング指導計画・実習③	
後12	”	スキندайビング指導計画・実習④、スキューバダイビング実習①	
後13	”	スキンドайビング指導計画・実習⑤、スキューバダイビング実習②	
後14	”	スキンドайビング指導計画・実習⑥、スキューバダイビング実習③	レポート(5)(6) 非常勤講師からの出題
後15	中村 夏実 榮樂 洋光	スキンドайビングレスキュー実習	
後16	”	学期末実技試験(泳力およびスキンドайビング技能)	